

# 第1回 ユニバーサル社会における MaaS の活用方策についての研究会 議事概要

## 1. 開催日時・場所

- ・開催日時：令和2年7月22日（水） 15：00～17：00
- ・開催場所：TKPガーデンシティ御茶ノ水 3階 ジョイント3A+3B+3C

## 2. 出席者

### 【委員】

- 秋山 哲男 中央大学研究開発機構 教授（座長）
- 谷口 綾子 筑波大学 システム情報工学研究科 教授 【Web参加】
- 中村 文彦 横浜国立大学 副学長・教授 【Web参加】
- 牧村 和彦 一般財団法人計量計画研究所 理事

### 【オブザーバー】

- 一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会
- 一般社団法人全国レンタカー協会
- 定期航空協会
- 公益社団法人日本バス協会
- 一般社団法人日本民営鉄道協会
- 一般社団法人日本旅客船協会
- 認定 NPO 法人 DPI 日本会議
- 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
- 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
- 京浜急行電鉄株式会社
- 東京地下鉄株式会社
- 東京都交通局
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 日本航空株式会社
- 株式会社ゼンリン
- 株式会社ヴァル研究所
- 株式会社駅探
- ジョルダン株式会社
- 株式会社ナビタイム
- WHILL 株式会社

## 【国土交通省】

公共交通・物流政策審議官  
総合政策局安心生活政策課長  
総合政策局情報政策課長  
鉄道局総務課企画室長  
自動車局総務課企画室長  
海事局総務課企画室長  
海事局内航課旅客航路活性化推進室長  
航空局総務課政策企画調査室長  
道路局企画課評価室長  
都市局都市計画課都市計画調査室長

## 【事務局】

総合政策局モビリティサービス推進課

## 3. 議事

### 3.1. 開会

※事務局より開会を宣言。

※事務局より座長候補として秋山委員を推薦し、委員からの承認を得た。

### 3.2. 討議

#### 【調査の進め方について】

- ・ 本検討会で想定される検討課題に対し、一度に全てに対応するのは難しいだろう。今後の MaaS に関わる取組みを通じて、課題解決の方向性が見えてくる事項も想定されるほか、別の問題に直面する可能性もある。そのため、現在把握されている課題に対し、少しずつ対応していくという方針が重要である。
- ・ MaaS は、様々な情報提供・サービス提供の対価として、様々な情報と連携した質の高い利用者の利用・行動履歴が取得できる可能性を秘めている。特に本事業に関連するデータとしては、事業者毎の対応の違いや、好事例等も収集可能と考えられる。将来的な視点として、MaaS によって得られるデータの活用や共有といった視点も重要である。
- ・ MaaS を通じた取組みは、「心のバリアフリー」にも通じる非常に重要な施策と考える。中長期的な視野も含めて、継続的に検討を続けていくことが重要である。
- ・ 事業者間の連携の中で情報の統一化が早期に進めば、MaaS の利用に係るハードルもより容易になると考えられる。バリアフリー化は、公共の福祉に資するものであり、地域間・事業者間で協調しながら進めていくもので、いわゆる一般的な「企業間の競争」にはそぐわない。そのため、MaaS に関わるサービスやアプリケーション等においては、国などの公共主体が率先して「事業者間で連携し情報の統一化を図る」ことが重要

ではないか。

- ・ **MaaS**における機能・サービスは、予約・決済・検索だけでなく、利用者に合わせたパーソナライズも重要な機能である。また、地域にどのような交通サービスが提供されているかを知らせる機能も重要である。特に、**MaaS**のバリアフリー化を検討する上では、利用者の特性に応じて必要な情報やサービスの提供等の検討が重要になることから、検討事項に追加したほうが良い。
- ・ **MaaS**は、移動手段の連携や移動に関わる多様な選択肢の提供が重要な要素であるが、このような新しいサービスが新たな障壁を生まないかについても注視したほうが良い。例えば、各地で実証実験等が行われている自動運転バス、グリーンスローモビリティのような新たなモビリティの導入によって生まれる課題についても議論しても良いと考える。
- ・ 車椅子利用者や聴覚障害者、視覚障害者からの要望の中には、例えば、すぐに全国展開が難しいといった事業者側の課題も想定される。課題解決に関わる実現の難易度について、事業者側の意見も踏まえつつ、継続して議論を行ったほうが良い。

### 3.3. 閉会

(以上)